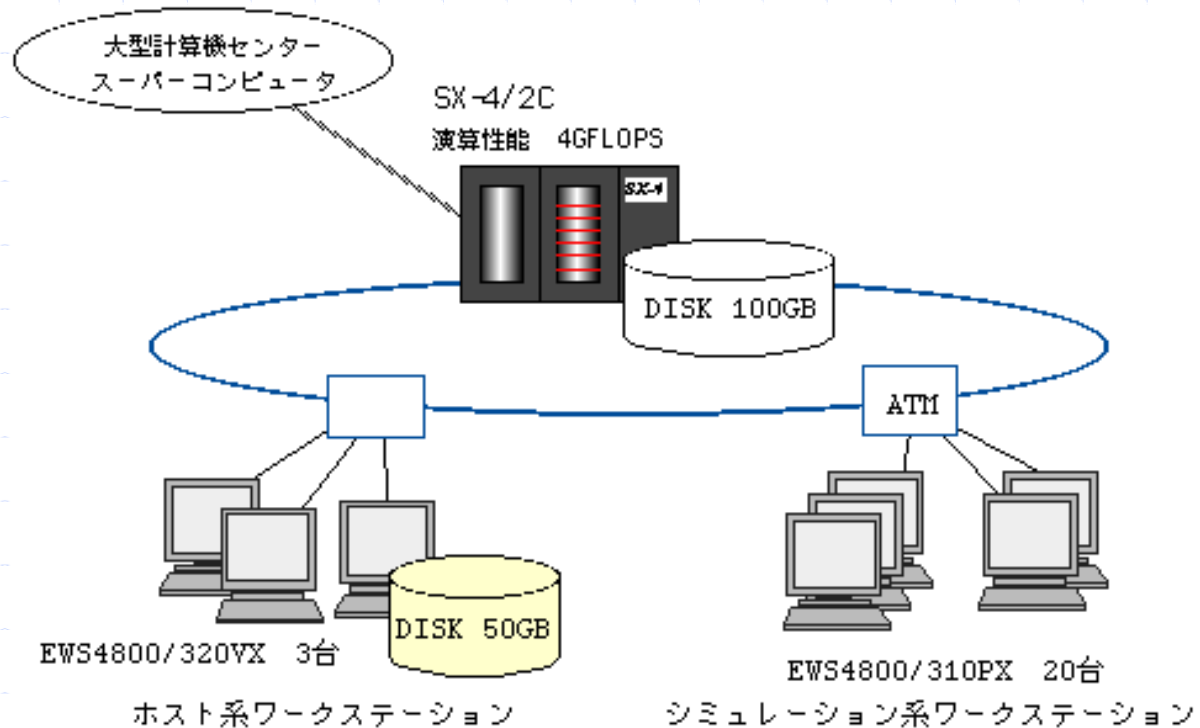


SR8000システム導入について

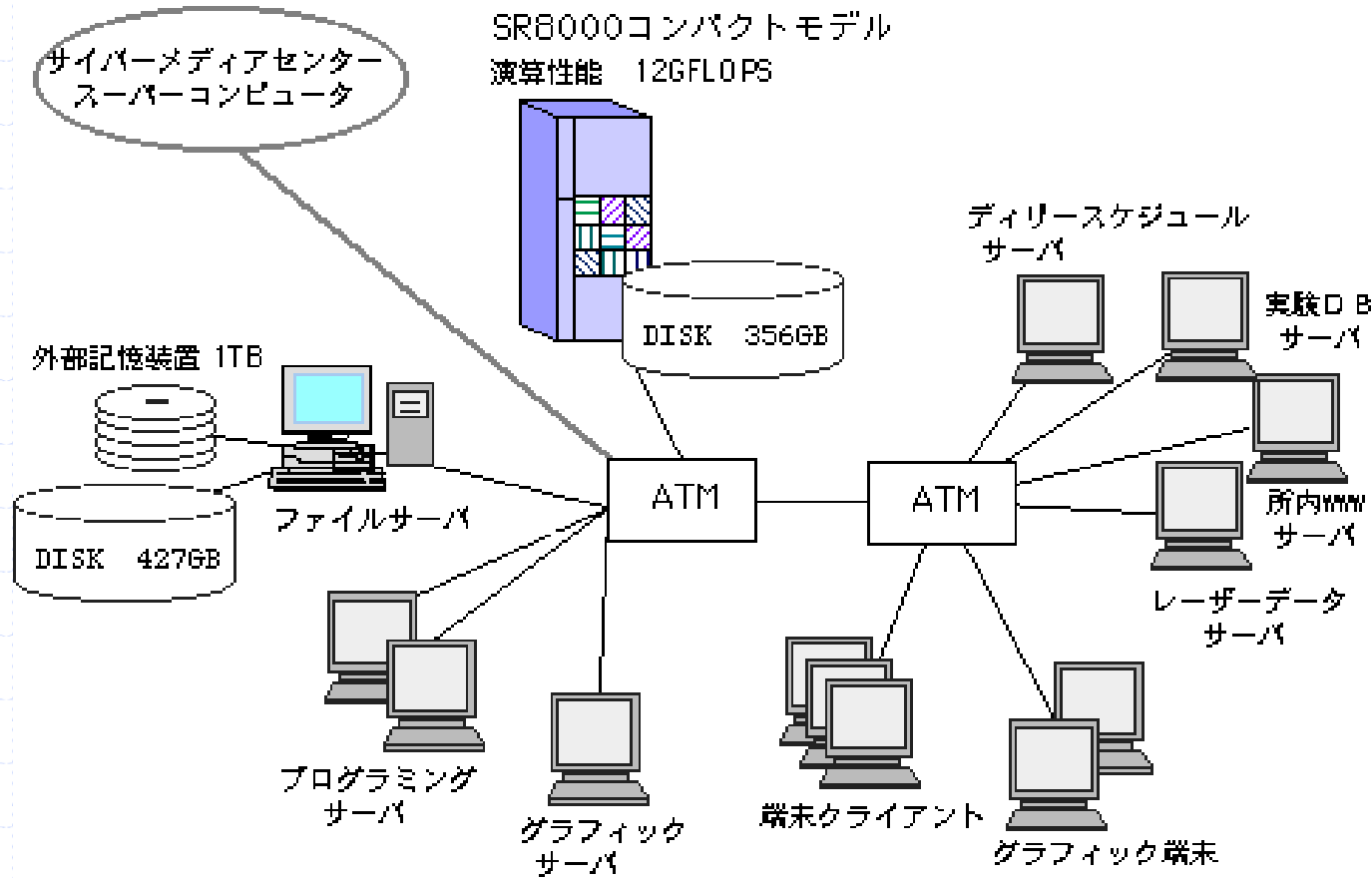
大阪大学レーザー核融合研究センター

○大橋 裕子、福田 優子、斎藤 昌樹
広瀬 華子、長友 英夫、西原 功修

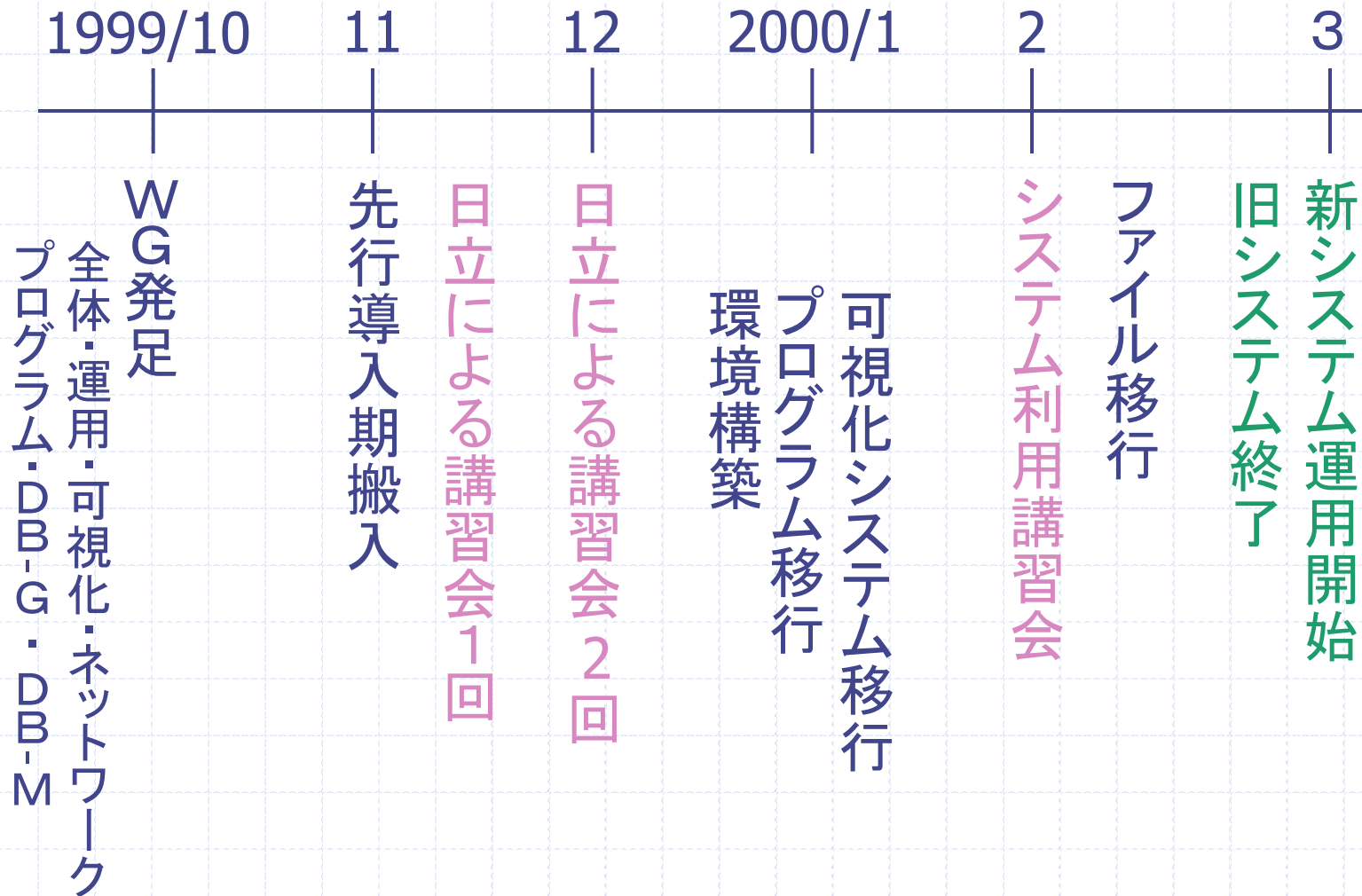
システム構成 -旧システム図-



システム構成 -現システム図-



導入から運用開始までの流れ



システム構築・プログラム移行

ポイント: 旧システムと違和感なく利用できること

- ◆ 先行導入機に、クロスコンパイラ利用環境
- ◆ 基幹プログラムなど数本を日立に移行依頼
- ◆ 修正が必要なプログラムの特徴
 - ・ NEC独自の拡張機能を使用
 - ・ NEC固有のライブラリを使用

ジョブ運用(1)

◆用語の意味の違い

NEC: CPU → 日立: IP

他、NQS関係の用語多数

◆希望する機能がサービスされていない

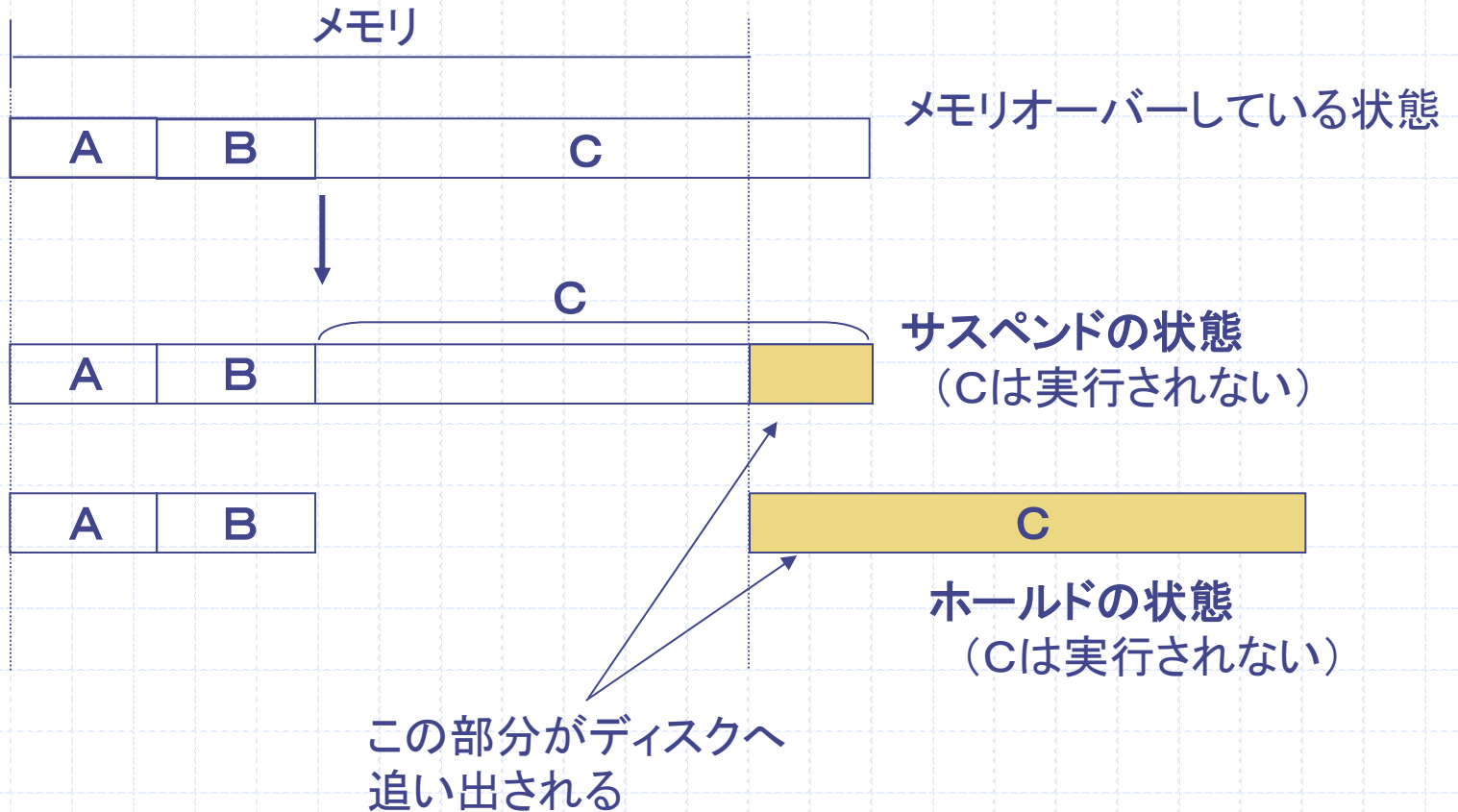
サスペンド機能がない

→この機能を用いない運用(不便!)

今まで利用していたコマンドがない

→同等の機能をもつコマンドを提供

ジョブ実行イメージ



ジョブ運用(2)

◆ NQS利用情報

ジョブ状況監視・・・5分毎の情報

毎月の集計・・・ジョブ数・CPU時間・使用メモリなど

◆ ジョブ運用の現状

ジョブ特性によるキュー設定・スケジューリング

モード切り替えによる運用

→通常モード・大規模モード

システム運用(1)

◆利用者への迅速な情報提供

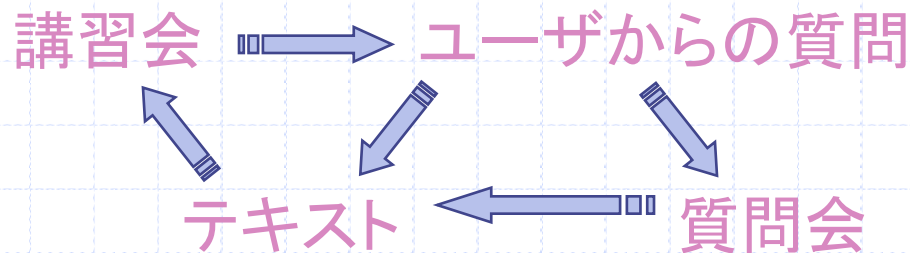
④ メール・所内Web・センター内の会議

④ システム利用講習会

④ 日立による講習会 ……運用開始までに4回

④ 定例会後の質問会

……プログラミングに関する質問への対応



システム運用(2)

◆ 稼働情報の自動採取

ディスク使用量

ログイン情報

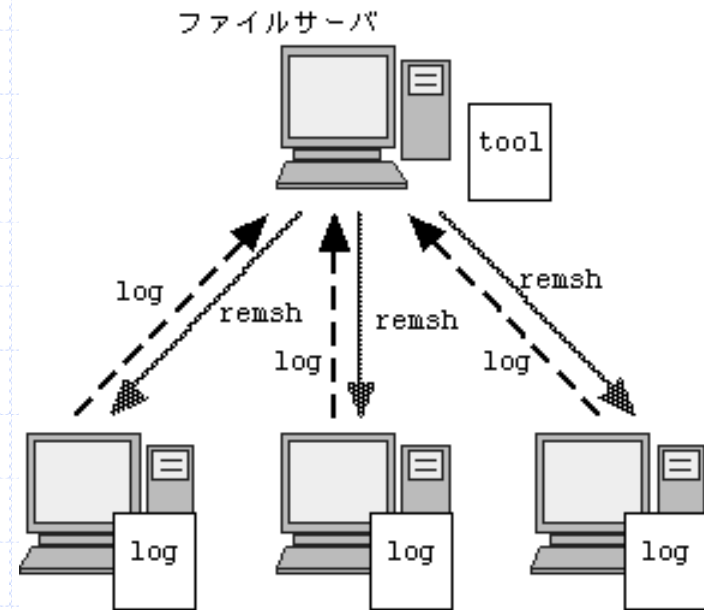
CPU/SWAP情報

NQS利用情報

SR8000稼働時間



情報採取ツール・ログは、ファイルサーバ上で一元管理
(rsh, remsh によるツール実行、ログ収集)



終わりに・・・

◆ 問題点の原因は？

初めての 数種の異機種を導入
当センター固有のシステムに慣れすぎ
メーカーとの意思疎通(当初)

◆ 今後の課題

より効率的な運用形態の確立
利用者が利用しやすい環境の構築
わかりやすいテキストの作成